

第 18 消防用水

1 構成

広い敷地に存する大規模な建築物又は近接して設置された建築物が火災になった場合に消火するための消防用の水利をいい、防火水槽、プール、池、濠、河川、湖、沼、海等常時規定水量以上の水量が得られるものが該当する。

2 消防用水の構造等

(1) 地盤面下 4.5m 以内の部分に設ける消防用水

ア 消防用水には吸管投入孔及び採水口を次により設けること。

(ア) 消防用水に設ける吸管投入孔は、原則として丸型で直径 0.6m 以上のものとし、1 個以上設けること。

(イ) 消防用水に設ける採水口は、「消防用ホースに使用する差込式又はねじ式の結合金具及び消防用吸管に使用するねじ式の結合金具の技術上の規格を定める省令」（平成 25 年総務省令第 23 号）に規定される呼称 75 のめねじに適合する単口（保護キャップ付き）とし、設置数は、第 18-1 表に掲げる数以上のものであること。★

第 18-1 表 採水口設置個数

所要水量	40 m ³ 未満	40 m ³ 以上 120 m ³ 未満	120 m ³ 以上
採水口の数	1 個	2 個	3 個

イ 採水口は、地盤面からの高さは概ね 1.3m の位置に設けること。ただし、積雪による支障を生じない措置を講じた場合は 0.5m 以上の部分に設置することができる。★

ウ 配管は、第 2 屋内消火栓設備 5 によるほか、次によること。★

(ア) 口径は、100 mm 以上とすること。

(イ) 毎分 1 m³以上の取水量で管の末端から吸管結合金具までの落差と、摩擦損失水頭の換算値合計が 6.6m 以内とすること。

(ウ) ごみ等の流入するおそれのある場合は、吸込み口にろ過装置を設けること。

エ 通気管は、次によること。★

口径は、採水時に十分な通気量を確保できるものとする。

(2) 地盤面下 4.5m を超える部分に設ける消防用水 ◆

ア ポンプを用いる加圧送水装置及び採水口を設けた場合は、政令第 27 条第 3 項第 1 号の規定にかかわらず、政令第 32 条の規定を適用し、地盤面下 4.5m を超える部分に設ける消防用水を有効水量とすることができる。

イ 加圧送水装置の吐出量及び採水口の数、第 18-2 表に掲げる吐出量及び数値以上のものであること。

第 18-2 表 加圧送水装置の吐出量及び採水口の数

所要水量	40 m ³ 未満	40 m ³ 以上 120 m ³ 未満	120 m ³ 以上
加圧送水装置の吐出量	1, 100ℓ/min	2, 200ℓ/min	3, 300ℓ/min
採水口の数	1 個	2 個	3 個

ウ 加圧送水装置は、次によること。

(ア) 加圧送水装置の設置場所等

第 2 屋内消火栓設備 3.(1)を準用すること。

(イ) ポンプの全揚程

ポンプの全揚程は、前イに定める吐出量時において採水口までの実高及び配管摩擦損

失水頭に 15m を加えた数値以上とすること。

(ウ) 呼水装置

第2 屋内消火栓設備 3.(1). イ.(エ) を準用すること。

エ 水源水量の確保

第2 屋内消火栓設備 4.(3) を準用すること。

オ 起動装置等は、次によること。

(ア) 起動装置は、採水口の直近及び防災センター等に設置し、遠隔起動とすること。

ただし、採水口付近に起動装置が設置できない場合は、採水口付近と防災センター等との間に同時に通話することができる設備を設けること。

(イ) 採水口の直近及び防災センター等には、加圧送水装置が起動した旨の表示灯を設けること。

カ 採水口は、前(1). イによるほか、次によること。

(ア) 「消防用ホースに使用する差込式又はねじ式の結合金具及び消防用吸管に使用するねじ式の結合金具の技術上の規格を定める省令」(平成 25 年総務省令第 23 号)に規定される呼称 65 の差し口に適合する単口(保護キャップ付き)とすること。

(イ) 採水口の直近で開閉弁の操作ができる構造とすること。

キ 配管は、第2 屋内消火栓設備 5 によるほか、次によること。

加圧送水装置から採水口までの配管の口径は採水口の数 2 個以下の場合にあつては 100mm 以上、3 個の場合にあつては 125mm 以上とすること。

ク 非常電源は、第 24 非常電源を準用すること。

(3) 地盤面より高い部分に設ける消防用水

屋上又は塔屋の部分に設けられた消防用水は、次によること。

ア 採水口の直近で開閉弁の操作ができる構造とすること。

イ 前(2). イ(採水口の数)、エ、カを準用すること。

(4) 配管等で凍結の恐れがある場合には、凍結防止の措置を講じること。

(5) 政令第 27 条第 1 項第 2 号に規定する「高さが 31m を超える建築物」の取扱いについては、第 3 プリンクラー設備 2.(16)によるものとする。

3 消防用水の標識

(1) 条例第 39 条に定める標識を設置すること。ただし、省令第 34 条の 2 に定める標識を準用できるものとする。

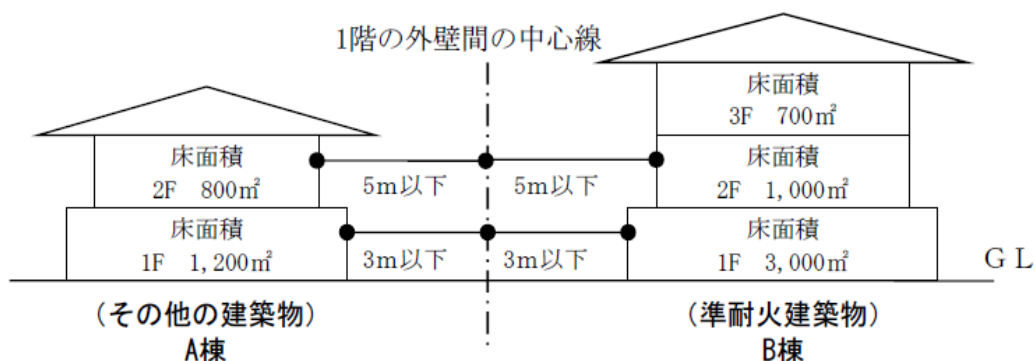
(2) 吸管投入孔には、「吸管投入孔」、採水口には、「採水口」と表示すること。

4 消防用水の設置単位に関する運用

第 3 章 第 3 消防用設備等の設置単位 参照

5 有効水量計算例

有効水量の計算例は、次によること。



$$A \text{ 棟 } (2,000 \text{ m}^2 \div 2,500 \text{ m}^2) + B \text{ 棟 } (4,000 \text{ m}^2 \div 5,000 \text{ m}^2) = 1.6$$

$$1.6 \text{ の小数点以下を切り上げて } 2 \times 20 \text{ m}^3 = 40 \text{ m}^3$$

$$\text{必要水量 } 40 \text{ m}^3$$